



学 会 通 信

第 80 号

2017 年 1 月 10 日発行

目次

2016 年度 第 23 回日本教育メディア学会年次大会のお礼	2
第 1 回研究会のご報告	4
第 2 回研究会のご案内	6
企画委員会企画 第 2 回研究会のご案内	7
理事会（定例）議事録	9
定例総会議事録	11
論文投稿のご案内	13
学会費納入のお願い、登録情報更新のお願い、入会者・退会者	14

2016年度 第23回日本教育メディア学会年次大会のお礼

大会実行委員長 小柳 和喜雄 (奈良教育大学)

第23回日本教育メディア学会年次大会は、2016年11月26日(土)・27日(日)に、奈良教育大学で開催され、200名を越える方々の参加を得て、成功裏に終了することができました。

本大会では、課題研究として「一人一台タブレット時代における実践と評価」「グローバル化とメディアの活用」「情報教育の動向と情報活用能力の育成」「メディア・リテラシーにかかわる授業づくりと番組作り」の四つのテーマを設定し、16件の発表がありました。

また一般研究発表は、タブレット端末環境などICTを活用した授業実践の研究、情報教育やメディア・リテラシーに関わる教育に関する研究発表、グローバルな視点をテーマとした教育、国際比較研究、教育メディアの観点から教材分析を試みる研究など、教育メディア研究に関する最新のテーマについて、58件の研究発表がありました。

一般研究発表では、昨年度の取組を引き続き、発表20分・質疑10分という時間を設け、研究報告に基づく議論の時間を確保した結果、各分科会とも活発な論議の時間を生み出すことができました。

全体に関わる事として、1日目には、「基調講演」として本学会会長である関西大学の黒上晴夫先生から、「変わりゆく教育状況とメディア研究」と題するご講演をいただきました。次期学習指導要領の改訂の方向性が明らかになる中で、今後の学習にはどのようなことが期待されているか、何が変わるのかについて具体的な報告をいただいた後、教育メディア研究としてそのような動きに対して何をなすべきか、どのような貢献が可能か、またどのような研究上の問いが考えられるのか(リサーチ・クエッションやリサーチ・トピック)に関わって、多くのご提案をいただきました。今後、教育メディア研究がこれらの課題にどう応答していくのか、参加者相互で問題意識を共有することができたのではないかと思います。また同日夜の懇親会では、予想を大きく上回る多くの方がご参加くださり、参加者同士の交流がな



されました。しかし提供料理の準備などの関係から、当日の申し込みを最終的にお断りしなくてはいけない事態も生じ、せっかくご参加を希望していただきました皆様方には、申し訳なく、本通信を通じてお詫び申し上げます。

全体に関わることとして、2日目は、「新学習指導要領と教育メディアの関係を問う」と題した「シンポジウム」を開催し、前日の黒上会長の基調提案を受けながら、次の4名の方に登壇をいただき、教育メディア研究の今後について、熱心に議論が行われました。西川和孝（文部科学省初等中等教育局）氏からは、「次期学習指導要領等と関わって」、福本徹（国立教育政策研究所）先生からは「資質・能力が求められるその背景」、堀田博史（園田学園女子大学）先生からは「新学習指導要領と教育メディアの関係～幼児期の終わりまでに育ってほしい姿は、どのような学びの過程で実現するのか～」、二田貴広（奈良女子大学附属中等教育学校）先生からは「中等教育で SNS を活用するための方略～SNS 活用が導く 21 世紀型スキル～」という報告が行われました。その後、相互に質疑が行われ、参加いただいた会場からの声にも応える形で論議が進められました。教育メディア学会として、教育改革の動きに対して、教育活動におけるメディアの活用とメディアそのものをどうとらえ、どう教えていくかに関して、あらためてその研究の視座が確認されたシンポジウムとなりました。

本大会では、昨年度より試みてきた発表予稿集を冊子にせず、PDF ファイルとして会員の皆様に配布する形を行いました。また、多くの現職教員の方に、本大会での議論に参加していただきたく、非会員の現職教員（幼・保・小・中・高）の方は、大会参加費を無料といたしました。会員の皆様がお声掛けくださり、多くの現職教員の方がご参加くださいました。

最後に、大会運営における受付対応等で、皆さまには入金の確認などでご迷惑をお掛けいたしましたこと、大会実行委員長として心よりお詫び申し上げますとともに、皆さまの温かいご支援とご協力により、滞りなく終えられたことを改めて感謝申し上げます。また本大会は、大会企画委員の中川一史委員長、中橋雄副委員長、大会実行委員の西端律子（畿央大学）先生、中村恵（畿央大学）先生、二田貴広（奈良女子大学附属中等教育学校）先生、一般財団法人奈良県ビジターズビューロー様ほか多くのみなさまのご協力で行うことができましたことを申し添えます。今後の学会の益々の発展を祈念しつつ、次期年次大会開催の茨城大学にバトンを渡したいと思います。

第 1 回研究会のご報告

研究委員会 小林祐紀（茨城大学）

テーマ「ICT 時代の実践研究／一般」

2016 年 7 月 17 日（日）、2016 年度第 1 回研究会が茨城大学教育学部にて開催されました。35 名が参加し、14 件の研究発表が行われました。

今回の研究会は「ICT 時代の実践研究」をテーマに開催されました。

ICT の整備・普及は、地域間の差という課題を抱えながらも全国各地で進められています。次期学習指導要領においても ICT 活用の推進や情報活用能力の育成の重要性が改めて指摘されているようです。また、各地で教職大学院が動きだし、これまで以上に実践と理論の往還が求められています。このようなことに鑑みて、本テーマを決定しました。

最終的な発表件数は 14 件となり、2 会場での開催となりました。

[A 会場]「血液型ステレオタイプにおけるメディアの影響と変容」では、血液型ステレオタイプがメディア接触と影響があるかを調査し、そのステレオタイプがメディアの影響を学習することによって変容することについて報告されました。「国語科教科書に表記のあるマッピングを活用した実践の分析 (1)」では、国語科教科書に表記のあるマッピングを活用した 3 名の教師による実践の分析結果について報告されました。「子どもの映像記憶—日本とペルーの視聴調査の結果から—」では、日本製アニメを視聴後に子どもたちがどのように映像を記憶しているのかについて、①日本の南米系外国人学校のペルークラス、②ペルーの日系学校、③ペルーのインターナショナルスクールで実施した調査結果について報告されました。「批判的なメディアの読み解きのためのルーブリック開発」では、教師も学習者も利用できる批判的なメディアの読み解きのためのルーブリックについて提案されました。「非同期型 e ラーニング環境下における共調整学習の特徴の分析」では、LMS 上で年齢の異なる学習者（中学生と高校生）がペアで学習を行う「共調整学習」場面での、彼らのやり取りの実態について報告されました。「小学校教師と中学校教師の授業でのメディア利用について」では、小学校と中学校の教師のメディア利用に関する調査結果をもとに、学校種によるメディア利用の類似点と相違点について報告されました。「メディア・リテラシーにおける番組制作者の役割—1996 年と 2015 年におけるアニメ『サザエさん』の時制表現の比較—」では、1994 年と 2015 年のアニメ各 18 話を分析結果について報告されました。

[B 会場]「小学校国語学習者用デジタル教科書活用場面を含み込んだ対話型授業における会話分析 (1)」では、学習者用デジタル教科書を効果的に活用する対話的授業における会話分析の結果について報告されました。「タブレット PC の効果的な活用に関する—考察—聴覚特別支援学校における ICT 活用事例の評価の比較から—」では、聴覚特別支援学校の中学部生徒を対象として 10 年間行ってきた電子黒板活用事例及びタブレット PC 活用事例の中から特徴のある 28 事例を抽出し、その評価結果について報告されました。「算数科における家庭学習と連動したカリキュラムの検討」では、授業実践に際して作成した、家庭学習と連動したカリキュラムについての検討結果について報告されました。「タブレット端末を用いた小学校理科「土地のつくり」における理解の変容」では、タブレット端末を用いた

「学校放送番組」を活用することで、どのように児童の科学的理解が変容するのかについて報告されました。「アクティブ・ラーニング型授業におけるルーブリック活用と授業内コミュニケーションに対する学生の評価ープレゼンテーション課題を例としてー」では、アクティブ・ラーニング型授業で実施したプレゼンテーション課題におけるルーブリックの活用と授業内コミュニケーションに対する評価について報告されました。「小学校教員を対象とした児童のタブレット活用に関する調査」では、タブレット端末の活用に関して、使い始めから1ヶ月が経過した7月と年度末の3月の2回全教員を対象に実施した質問紙調査の結果について報告されました。「ネットワークを介して協働的に行う家庭学習の実際と児童の意識(1)ー実施後約1ヶ月の実施状況と児童の意識ー」では、セルラーモデルのタブレット端末を用いて、ネットワークを介して協働的に行う家庭学習実施直後(約1ヶ月)の実施状況と質問紙調査の結果について報告されました。

全体を通して、テーマについての議論も十分になされました。質疑応答も各会場で活発に行われました。それぞれの発表内容は、今後の展開が期待されるものばかりでした。本研究会にご参加いただきました皆様に、改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。

第 2 回研究会のご案内

研究委員会 稲垣忠 (東北学院大学)

研究会テーマ「新学習指導要領と教育メディア／一般」

今年度中に全体像が示される新学習指導要領では、学習課程の質的転換（アクティブ・ラーニングの視点）を重視する基本方針のもと、外国語活動の抜本的強化、プログラミング教育の導入、高等学校における科目の変更、多様な教育ニーズに対応する学びの場の確保、地域・家庭・学校の連携・協働の活性化などが示されると見込まれています。

これらに対して教育メディアはどのように応答するのか、幅広く考えながら将来の実践や研究の方向性を探究する場といたく、今回は「新学習指導要領と教育メディア」をテーマにした発表を募集します。その他、本学会がテーマとする内容に関する研究についての発表も募集します。

・開催日：2017年3月4日

・場所：信州大学教育学部 講義棟

<http://www.shinshu-u.ac.jp/guidance/maps/map01.html#campus>

(キャンパスマップ 4 番の建物)

・開催時間：10:00-15:35 (発表件数により変動する可能性があります)

*JSET 研究会と並行開催 (同じ建物で開催) します。JSET 研究会については次の URL を参照ください。

<https://www.jset.gr.jp/study-group/index.html>

★並行開催のため、双方の研究発表を見ることができます。受付、研究報告集の購入はそれぞれ別途になります。プログラム編成の都合上、第一発表者としての発表はいずれかの研究会のみでお願いします。

・発表申込み：2017年1月22日(日)(発表タイトルと著者名のみ)

・原稿締め切り：2017年2月12日(日)(発表原稿をメールにてお送り下さい)

発表の申込み、書式等はつぎの URL を参照ください。

<http://jaems.jp/meeting/>

・発表時間は 24 分 (19 分の発表と 5 分の質疑) です。

企画委員会企画 第2回研究会のご案内

企画委員会委員長 佐藤幸江（金沢星稜大学）

企画担当 久保田賢一（関西大学）

テーマ「デジタル教科書のメリット・デメリットを考える」

デジタル教科書（教材）がここ数年で急速に普及してきました。文部科学省の専門家会議は、学習を向上させるため、ICTの将来性・可能性を見据えて、デジタル教科書を2020年からの導入を提案しています。しかし、多くの教師はこれまで使ったことのないデジタル教科書の導入に大きな不安を抱えています。

文科省は、教科書のデジタル化の推進に向けて、教科書制度の在り方や、それに応じた著作権の在り方など、多くの課題についての専門的な検討を行っていますが、教員はICT機器やデジタル教科書（教材）をどのように使ったらよいか十分に理解しないまま、学校現場に次々と導入されてきている現状があります。

本ワークショップでは、デジタル教科書の学習効果について、その原点に立ち戻って検討を加え、デジタル教科書を使う場面を精査することでどのような役割や効果が期待できるか、また、現状の学習活動との違いはどこに現れてくるのかなどの議論を深めたいと考えています。デジタル教科書を推進していこうという人と、懐疑的にとらえている人を登壇者として招き、学習のメリットとデメリットについての熱い議論が交わされることを期待します。

■日程：2017年2月10日（金曜日） 14:00～17:00（受付13:30より）

■場所：内田洋行新川ユビキタス協創広場

<http://www.uchida.co.jp/company/showroom/canvas/tokyo/>

■定員：100名（定員に達し次第締め切ります）

■参加費：1000円

■参加申込み：下記の「参加申し込みフォーム」より事前登録をお願いします。

■プログラム

- ・13:30～： 受付開始
- ・14:00～14:10：開会の挨拶
- ・14:10～15:30：パネリストからの発表（各15分程度）

司会：中橋雄（武蔵大学）

パネリスト：

新井紀子（国立情報学研究所）

石戸奈々子（慶應義塾大学、NPO法人CANVAS理事長）

小笠原喜康（日本大学）

山本朋弘（鹿児島大学）

- ・ 15:30～15:40 : 休憩
- ・ 15:40～16:50 : 質疑応答
- ・ 16:50～17:00 : 閉会の挨拶

■ 了解事項

本会の様子をビデオおよび写真撮影いたします。撮影した内容を Web サイト等で公開予定ですので、ご了承ください。

不都合がある方は、事前にお申し出ください。

■ 問い合わせ先

久保田賢一（関西大学） kubota*kansai-u.ac.jp （*を@に変えてください）

■ 参加申し込み受付フォーム

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSeOnX9O-YB2r_h_-H5sig6KEXRmqmp9LqXfA167J0B4ZDmv0Q/viewform?c=0&w=1



理事会（定例）議事録

第8期 第4回理事会 議事録

[日 時] 2016年11月25日（金）16:00-17:30
[場 所] 奈良教育大学 第3演習室
[出席者] 会長、理事14名、委任状（議長に一任）10名、監事1名

<審議事項>

（1）入会者・退会者について（事務局）

事務局長から、前回理事会以降の入会者・退会者について説明があり、審議の結果承認された。

（2）会則の変更について

8月の理事会において審議した会費未納会員の扱いについて定めた会則第9条について、「3年間の未納で除籍とする」ことを明示した修正会則を新旧対照表にて示し、承認された。本件は総会にて第3号議案として提出し、承認を得たのち、会則を変更する。

（3）各種委員会規定について（事務局）

各種委員会規定の整備を今後行うことについて承認された。

（4）今後の ICoME について（研究委員会（国際））

研究委員会（国際研究会担当）副委員長より、8月18日～20日に開催された ICoME2016 の開催報告がなされた上で、次年度以降の ICoME について審議がなされ、承認された。また、他学会との連携についても引き続き検討することとする。

<報告事項>

（1）次年度年次大会について（年次大会委員会）

年次大会委員会委員長から本年度の年次大会準備状況に関する報告がなされ、次年度は2016年10月14日・15日に茨城大学で年次大会を開催する計画について報告がなされた。

（2）企画委員会第2回ワークショップについて（企画委員会）

企画委員会副委員長から、本年度すでに開催された企画委員企画（7月17日（日）@茨城大学※研究委員会（国内研究会）との合同）に関する報告と、今後の計画（2月10日（金）@内田洋行新川オフィス）について報告がなされた。

(3) IJEMT の編集の進捗状況について (編集委員会 (国際))
編集委員会 (国際ジャーナル担当) 副委員長から International Journal of Educational Media and Technology の編集状況について報告がなされた。

(4) 井内賞選考結果について (井内賞選考委員会)
井内賞選考結果について、担当委員が欠席であったため、審査経過を事務局長が代読し、報告された。

(5) その他の委員会からの報告について
◎研究委員会 (国内研究会)
研究委員会 (国内研究会) 副委員長 (国内) から本年度すでに開催された第 1 回研究会 (7 月 17 日 (日) @茨城大学) の報告と、第 2 回研究会 (3 月 4 日 (土) @信州大学) の計画について報告がなされた。

(6) 今後の理事選挙について (事務局)
状況報告ののち、意見交換がなされ、次回理事会において電子投票について検討をすることになった。

(7) その他
・ J-Stage の移行に関する状況説明があった。
・ 次回の理事会は、2017 年 4 月 15 日 (土) に、東京および大阪各会場を遠隔で接続し開催する予定となった。

以上

定例総会 議事録

1. 日時：2016年11月25日（土）12:30-13:20

2. 場所：奈良教育大学 大講義室

3. 内容

議事に先立ち、事務局長から、会員総数411名のところ、有効な委任状が70通事務局に届き、出席者が41名のため、学会会則第44条に従って2016年度定例総会が成立していることが報告された。

（1）議案

第1号議案 2015年度事業報告及び収支決算（案）承認の件

事務局長から資料に基づいて、2015年度事業報告（機関誌発行、年次大会の開催、学术交流等：研究会、ICoME2015、ワークショップの開催、事務局の移転等）についてそれぞれ説明があり、また、監事から通帳や会計書類を確認の結果、適正に処理、保管されていることが報告され、審議の結果、2015年度収支決算（案）が異議無く承認された。

第2号議案 2016年度事業計画および収支予算承認の件

事務局長から資料に基づいて、2016年度事業計画（機関誌発行、年次大会の開催、学术交流等：研究会、ICoME2016、ワークショップの開催等）についてそれぞれ説明があり、審議の結果、2016年度収支予算（案）が異議無く承認された。

第3号議案 会則の変更について

会費未納会員の扱いについて定めた会則第9条について、「3年間の未納で除籍とする」ことを明示した修正会則案について説明があり、審議の結果、異議なく承認された。

第4号議案 論文賞について

これまで日本教育メディア学会の論文賞として実施されていた井内賞が終了となることを受け、新たに論文賞を設けること、その趣旨については理事会内で検討することが提案され、審議の結果、異議なく承認された。

（2）報告事項

①表彰「日本視聴覚教育協会・井内賞」審査経過と結果報告

・井内賞選定委員の堀田委員、村野井委員が総会を欠席のため、黒上会長より「日本視聴覚教育協会・井内賞」の審議経過と結果が報告され、表彰が行われた。

受賞者名：塩谷京子・堀田龍也・久保田賢一

論文名：初等教育における学校図書館の学習環境の改善 - 情報活用スキルを育成するための学習環境整備の要件 -

掲載論文誌：教育メディア研究 第22巻第1号（研究論文）

②2017年度年次大会の件

年次大会委員会委員長から次年度の年次大会を2017年10月14日（土）・15日（日）に茨城大学で開催する計画について報告がなされた。

③その他

◎ICoME2017の件

研究委員会副委員長（国際）より、ICoME2017が2017年8月2日（水）・8月3日（木）・8月4日（金）にハワイ大学マノアキャンパスにて開催する計画について報告がなされた。

◎国内研究会の件

研究委員会委員長（国内研究会）から本年度すでに開催された第1回研究会（7月17日（日）@茨城大学）の報告と、第2回研究会（3月4日（土）@信州大学）の計画について報告がなされた。

◎企画委員会の件

企画委員会副委員長から、本年度すでに開催された企画委員企画（7月17日（日）@茨城大学※国内研究委員会との合同）に関する報告と、今後の計画（2月10日（金）@内田洋行新川オフィス）について報告がなされた。

◎論文誌の送付方法の件

事務局長からこれまで会費未納入会員に対しても論文誌を送付していたが、今後は送付を停止することとする。なお、会費納入が確認されたのち、納入済み会員に対し一斉に送付することが報告された。

以上

論文投稿のご案内

編集委員会 委員長 鈴木克明（熊本大学）

■『教育メディア研究』特集号 「変わりゆく教育状況とメディア・リテラシー」 (Vol. 24, No. 1)

社会の情報化は著しく進展・変化しています。これに対し、かなりの遅れをとりながらも教育現場のメディア環境は整備されつつあります。また学習指導要領改訂にむけて学力観や学習の在り方などについて議論が重ねられています。こうした状況において、メディア・リテラシーに関する研究の重要性は増しているといえます。そこで本特集号では、変わりゆく教育状況に対応したメディア・リテラシーに関する理論や教育実践、調査研究など様々な視点からの研究論文を募集します。

締切 2017年4月30日

※例年より締切が早くなっています。ご注意ください。

また、同時に一般論文も広く募集いたします。一般論文は随時受け付けています。多くの会員からの投稿を期待しています。

◆ 学会費納入のお願い ◆

<納入のお願い>

2016年度（2016年4月1日から2017年3月31日）の年会費（正会員7,000円、学生会員4,000円）が未納の方は、下記口座にお振り込みいただくようお願いいたします。

先日開催されました定例総会（2016年11月26日 於：奈良教育大学）にて、会費滞納に関する取り扱いを定めております会則第9条の改正が承認されました。

改正された規定では、会費滞納の会員に対する扱いについて以下のように定めております。

第9条

会員の会費の滞納による除籍については、以下のように定める。

（1）正会員、学生会員、団体会員ならびに購読会員が、会費を3年間滞納したとき、その年度末をもって除籍され、会員の資格を喪失する。

（2）除籍された元会員が再入会するとき、滞納会費の納入を要する。

過去3年にわたって未納状態が続きますと、各年度末に除籍となり会員資格の失効となりますのでご注意ください。

会費の納入状況についてご不明な点がございましたら、事務局（office@jaems.jp）までご連絡ください。

<送金先>

銀行名：ゆうちょ銀行 種目：普通 店番：418 店名：四一八店（ヨニイチハチ店） 口座番号：0865850 名義：日本教育メディア学会（ニホンキョウイクメディアガクカイ）
--

- ※ 振込手数料は、ご負担ください。ゆうちょ銀行口座からATMを使って納入いただく場合、手数料は無料です。
- ※ ご自身のゆうちょ銀行口座以外から振り込む場合は、振込人名義を「学会名簿に登録した会員氏名」にして下さい。それが出来ない場合は振込後、事務局にメールでご連絡ください。
- ※ 過年度年会費をまとめて振り込む場合には、学会事務局にご連絡ください。
- ※ 学生会員は、学生・大学院生（社会人学生を除く）です。会費納入に併せて学生証などの証明書類を事務局宛に提出してください（スキャナ、デジタルカメラ等で取り込んだデータのメール添付でも受け付けます）。

◆ 登録情報更新のお願い ◆

本学会では、「学会通信」および重要なお知らせを電子メールで会員に配信しております。また、学会論文誌「教育メディア研究」を郵送しております。これらを確実にお届けするために、学会からのメール・学会論文誌が届いていない方は、事務局までメールアドレス、お届け先住所の情報をお送りくださるよう、よろしくお願いいたします。

【入会者・退会者】※敬称略

新入会員・正会員（3名）・・・村上 徹、米田 照美、森山 潤

新入会員・学生（2名）・・・高橋 敦志、大井田 かおり

退会者・正会員（1名）・・・熊谷 紀男

会員総数 435名・16団体

名誉会員：3名

正会員：375名

学生会員：57名

団体会員：6団体

購読会員：10団体

（平成28年12月20日現在）

日本教育メディア学会 事務局

〒543-0054 大阪市天王寺区南河堀町4-88

大阪教育大学 寺嶋浩介 研究室内

E-mail : office@jaems.jp

学会ホームページ URL : <http://jaems.jp/>

広報委員会

委員長 後藤康志（新潟大学）

副委員長 渡辺 雄貴（東京工業大学）

委員 岩崎千晶（関西大学）

井ノ上憲司（大阪大学）

遠海友紀（東北学院大学）